小児患者を治療している国内外の病院における絵本利用の実態

○丸山 (山本) 愛子¹

(¹ 日本赤十字広島看護大学)

キーワード: 小児患者、絵本、読書療法

Current status of the installation environment of the picture book in hospital is treating pediatric patients inside and outside Japan

Aiko MARUYAMA¹

(¹ Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing)

Key Words: Pediatric Patient, Picture Book, Bibliotherapy

目 的

これまで、患者のストレスを軽減するものとして、絵本読書や絵本の読みきかせの有効性が注目されはじめている。

実際、小児患者の診察待ちのストレスを軽減するために、絵本を待合室に設置する病院は非常に多い。また、絵本を入院患者を良好な心理状態に導くものとして病棟や休憩室に設置する病院も多くみられる。しかし、各医療機関(病院)において、絵本がどのような目的で・どのように設置・管理され、どのような基準で選定されて患者へ提供されているのかなど、現状を把握できる報告はほとんどなされていない。

本研究では、絵本を人の認知・行動・環境それぞれに影響を及ぼす可能性の高いものであると捉え、医療現場でより有効に絵本を活用するために、まず実態調査が不可欠であると考えた。

本研究の目的は、国内外の小児患者を受け入れている病院を調査し、絵本が提供されているか否か、提供されている場合どのような目的で、どこに設置・管理されているのか、絵本の選定方法と数などについて明らかにすることであった。

方 法

研究対象 小児患者を治療している国内(西日本)の病院 20 か所、国外(米国、オーストラリア)の病院 5 か所、合計 25 箇所。

手順 小児患者を対象に治療している国内外の総合病院および個人病院に赴き、絵本の利用に関する詳細な調査を行った。研究実施に際して、日本赤十字広島看護大学の研究倫理審査委員会でも審査してもらい、承諾を得てから研究を実施した。

調査内容 以下に示す 11 項目について調査した。1. 絵本の設置の有無、2. いつから導入したか、3. 絵本の設置理由、4. 設置あるいは提供されている場所、5. 整備されている絵本の数、6. 管理について、7. 利用する対象者とおよその年齢、8. 絵本の設置への反応、9. 絵本の選定方法、10. 選定方法の見直しと頻度、11. 患者とその家族からの意見をどのように把握しているか。

結 果

1. **絵本の設置の有無:** 日本国内外ともに 100%であった。
2. **設置の時期:** 日本国内外ともに 開院時から 100%(国内 2 箇所、国外 3 箇所については不明であった。)
3. **絵本の設置理由:** 国内外の医療施設両方で、大別すると、以下に示す 6 通りで絵本は用いられていた。

第一に、病気の内容を説明する際や治療について小児患者に理解させる際に説明の補助的道具として絵本を用いている。

第二に、病気で学校へ通学できない小児患者に対して、知識の習得・学習を援助する教材道具として絵本を提供する。

第三に、診察の待ち時間や閉鎖的に限られた病棟空間において小児患者のストレスを軽減させるために絵本を導入する。

第四に、親子あるいは治療スタッフと小児患者のコミュニ

ケーションを促進するための媒介物として、絵本を活用する。

第五に、暇つぶし、遊び道具として絵本を提供している。

第六に、患者が退院時に置いて行ったから活用している

4. 設置あるいは提供されている場所: 設置されている場所は、外科系病棟、内科系病棟、内外科系混合病棟、療養病棟、外科系外来、内科系外来、内外科系混合の外来であった。

5. 絵本の数: 国内では、総合病院では平均約 2450 冊、小児患者への処置が可能な個人病院では平均約 230 冊、国外では、総合病院では平均約 2000 冊、小児患者への処置が可能な個人病院では平均約 150 冊。各病院で数を正確に把握していない場合もあるため「約」によって報告されることが多かった。

6. 管理について: 絵本を毎月あるいは毎年購入し、整理し、管理しているスタッフは、医師、看護師、看護部長、看護師(特定の担当者)、事務員、医師の家族(主に妻)、図書専門の担当者のいずれかに分類することができた。個人病院とは異なり、総合病院においては、看護師(多くの場合特定の担当者)または図書専門の担当者によって絵本は管理されていた。

7. 利用する対象者とおよその年齢: 利用する対象者を大まかに分けて、0 歳児～2 歳児、3 歳児～6 歳児、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学生以上、成人に区切った。最も利用していたのは、3 歳児～6 歳児、成人でありともに高かった。続いて、0 歳児～2 歳児、小学校低学年、中学年、高学年、中学生以上であった。小児患者が就学前の乳幼児である場合、成人(両親や保護者にとって代わる人)が就学前児に読み聞かせを行っていることがほとんどであった。

8. 絵本の設置への反応: 患者が喜んでいる、患者の家族が喜んでいる、病院スタッフが喜んでいるなどが挙げられた。

9. 絵本の選定方法: 国内外問わず、絵本を管理しているスタッフによって毎月または毎年選定されていた。選定基準は、スタッフの独断による選定、人気の絵本ランキングや良書推薦の資料を参考に選定する、小児患者とその親の推薦によって選定する、など病院ごとに様々であった。

10. 選定方法の見直しと頻度: 見直しはされていないかった。

11. 患者とその家族からの要望や意見の把握: 患者と家族からの要望・意見を把握するための対応の有無については、対応している病院が 9 割前後あった。対応有りの場合、対応内容は、要望や意見を自由に書ける調査紙と投函箱を絵本コーナーや休憩所に設置している(日本国内 100%、国外 100%)か、患者と家族に直接意見を定期的にきいていた(国内 3 病院)。

考 察

本研究の結果より、日本国内外問わず、小児患者を治療している病院において絵本が多く理由により活用されており、絵本が重要な働きを担っていることが明らかとなった。